

Sandra Harding

ミスター・ノーウェアのあとに

フェミニストの客観性

そして科学的主体とは何か

日時：2014年12月17日（水）15:00～17:00

場所：お茶の水女子大学本館 209号室

講師：サンドラ・ハーディング Sandra Harding

科学哲学者。UCLA を荣誉教授として退任。著書に『科学と社会的不平等—フェミニズム、ポストコロニアリズムからの科学批判』（北大路書房）、『Sciences from Below: Feminisms, Postcolonialities, and Modernities』（Duke University Press）『Is Science Multicultural?: Postcolonialisms, Feminisms, and Epistemologies』（Indiana University Press）など。

客観的、価値中立的であることを重視する科学の伝統は、世界のどの特定の場所にも属さず、世界のあらゆる場所を見通す「Mr. Nowhere —どこにもいない彼」であることを、研究する主体に求めてきました。しかし、その実際の担い手は、明らかに特定の集団に偏り、多様性を欠いています。フェミニズム、ポストコロニアリズムなど、社会正義の運動にコミットする立場からの科学がもつめる客観性とは、そして科学的主体とは、どのようなものでしょうか。

フェミニスト視点から伝統的な知の生産制度を批判して「強い客観性」を提唱し、スタンプポイント理論の成立などに大きな影響をあたえてきた科学哲学者のサンドラ・ハーディングさんが来日される機会に、特にフェミニスト視点から、社会的価値にコミットする科学と研究のあり方を議論する講演会を開催します。

12/17
Wed.

使用言語：英語（通訳なし。ただしディスカッション時は必要に応じてつけます）

定員：40名

申し込み：IGS ウェブサイトの申込フォーム <http://www.igs.ocha.ac.jp/app-def/S-102/igswp/>

主催：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

問い合わせ：igsoffice@cc.ocha.ac.jp